

ヒヤリハット対策強化による意識改革

～閲覧対策による効果～

施設名：鹿児島県 サンセリテのがた
発表者：塚野咲（つかのさき）

【はじめに】

ヒヤリハット報告数が増えると事故件数が減少するという過去のデータから、ヒヤリハット報告書の閲覧対策の強化に取り組んだところ、事故発生数が減少し、今後の指針となった。

【対策内容と結果】

ヒヤリハット報告数を増やす為には、報告内容の充実と閲覧意識を高めることが重要であり、情報を全員で共有することで、事故件数の減少につながるものと考えた。

これまで、ヒヤリハット報告書は入居区域を3つのエリアに区分し、区域別に報告書が提出され、それぞれで保管していた。職員は3カ所の報告書を全て閲覧し、各報告書の空白部分に捺印する方法をとっていた。報告書は手書きで記入することとしている。

平成26年5月～平成27年1月において、ヒヤリハット報告書は事故対策委員が管理し、報告書の記載内容と看護・介護職員の閲覧状況の確認、非閲覧者に対する閲覧の呼びかけを行った。

しかし、対策前（平成24年1月～平成25年12月まで）と比較して、ヒヤリハット報告数の増加はみられず、報告書の閲覧率は上昇したものの6割にとどまった。事故発生数は僅に増加し、期待された結果にはならなかった。

そこで、更に閲覧率を上げる為に、平成27年2月より、事務室に設置してある職員向け掲示板に非閲覧者の氏名を貼り出す事とした。又、報告書の閲覧場所を1カ所とし、施設内ネットワークのパソコン端末で閲覧可能な共有ファイ

ルに、新たな報告書が作成されたことを記載して周知を図った。その結果、平成27年2月～平成27年11月において、ヒヤリハット報告数は最多となり、報告書の閲覧率は100%、事故発生数はこれまでの最少となった。

【考察・まとめ】

非閲覧者氏名の貼り出しにおいては、職員の反応に多少の懸念を抱いたが、実施すると「当然の対策である」との意見が多く聞かれ、職員は報告書の重要性を認識している事が分かった。これまで閲覧場所が3カ所に分散していた為、閲覧が煩雑となり、新たな情報が周知しづらく、このことが閲覧率の低さの一因となっていた。閲覧場所を1カ所にして、パソコンを利用して周知を図ったことで、閲覧が簡素化され、更に非閲覧者の氏名貼り出しにより、閲覧意識が高まり、結果としてヒヤリハット報告数増加と事故件数の減少につながったものと考えられる。又、非閲覧者への呼びかけを委員以外の職員も実施するという二次的効果も得られ、閲覧意識は高まり、報告書が事故防止を介して、入所者にとっての有益性を高める事を認識し、閲覧を責務と考えるようになった。

平成27年2月以降のヒヤリハット報告数、閲覧率、事故発生の結果を維持、向上していく為に、今後も閲覧管理を継続して、状況に応じた適切な対策の実施に努めたい。